

経営者への活きた言葉

税理士法人 優和

TEL 03-3455-6666
FAX 03-3455-7777

経営者への活きた言葉

「学び直し」の時代がやってくる 柳川範之（東京大学大学院教授）

1. 情報技術（IT）や人工知能（AI）の発達などによって、今後必要となる能力や人材が今までと大きく異なってくる。多くの人がそう感じ始めているのではないのでしょうか。問題なのは、その動きがかなり急速なことだ。必要とされる能力が急ピッチに変化するならば、その変化に応じた能力開発も、一人ひとりが急ピッチで行なっていく必要がある。さもないと各個人が十分に働くことができないばかりでなく、経済全体の生産性も下がってしまう。そもそも人口が減少していく日本においては、一億総活躍するためには避けて通れない課題だ。
2. 必要な能力が急速に変化していくとすれば、すでに社会人として働いている現役世代であっても、それに対応した能力開発は避けられない。寿命は延び、働く期間も長くなっている。その間を、若いときに身に付けた能力で走り抜けられるほど、変化のスピードは遅くない。よって、各個人が主体的に行動を起こす必要がある。大人の「学び直し」が必要なのだ。
3. 大人の「学び直し」は高齢化社会を迎えた今、いくつになっても元気に社会で活躍できる能力を維持するうえでも必要なことだ。「学び直し」といっても、まったく新しいことを一から学ぶ必要がある人は、おそらく少数だろう。大部分の人は今までの体験を新しい時代に合わせる形で、バージョンアップさせるタイプの能力開発になるだろう。あるいは、今までの経験に加えて関連分野の知識を身に付けることも、仕事の幅を広げるうえで有効かもしれない。

（参考：「週刊東洋経済」2016年1月16日号）

経営者のための理念・哲学

自分の人生をどう生きるか

横田南嶺（鎌倉円覚寺管長）

1. 私が禅の道に入るに至った一番のご縁は、6年前に101歳でなくなった松原泰道の先生との出会いでありました。泰道先生が90歳を迎えられ、私の坐禅の修行もほぼ終わりかけていた頃「自分はこれからどのように生きていけばよいのだろうか。一生涯の指針となる言葉をいただきたい」と、お願いしました。その時に先生が書いてくださったのが、「衆生無辺誓願度」という言葉でした。
2. 「衆生」というのは、生きとし生けるもの、「無辺」とは限りがないという意味です。生きとし生けるものの悩みや苦しみ、悲しみは尽きることがないのです。「誓願度」の度とは渡すという意味です。迷いの世界から、悩みのない安らかで幸福な世界に生きとし生けるものを渡して差し上げる。そのことを誓う仏教の言葉が「衆生無辺誓願度」です。平たく申しますと「生きとし生けるものが皆幸せでありますように」という願いとも言えます。

（参考：「致知」：2016年3月号）

ワンポイント経営アドバイス

世の中を動かすのは「力」である

古森重隆（富士フィルムホールディングス 代表取締役会長・CEO）

1. 経営者のリーダーシップは、つまるところ「絶対に成功させる」という覚悟ができるか否かということになります。それは決断する力といってもいいでしょう。決断したら成功までやり抜く、そのためには勇気と気迫が必要です。しかし、勇気や気迫というものは、経営者になったから身につくというものではありません。
2. 私自身について言えば、満州で迎えた終戦時のみじめさが原体験にあるのだと思います。会長室には「力」と書かれた額を掲げています。世の中すべて戦いです。人であれ、会社であれ、結局、世の中を動かすのは「力」なのです。だから経営者は、すべての戦いに勝てる真の実力を養わなければなりません。

（参考：「CEOアジェンダ2016」ダイヤモンド社）

古典に学ぶ

国は聖なる住家

（解説）私たちの自然崇拝によって、その国は、私たちの魂の最奥に親しくなった。一方、その祖先崇拝は、家系を次々とどってゆけば、皇室を全国民の源流とした。私たちにとって国はそこから金を掘ったり、麦を穫ったりする国土や土壌にとどまらない。国は私たちの父祖の霊である神々の聖なる住家である。

（参考：佐藤全弘訳新渡戸稲造著「武士道」：教文館）